



海外

稲門会の躍動

Overseas TOMONKAI

ハワイの魅力

世界中の人が憧れ、安らぎを求めて訪れるハワイ。普段は生活に追われ、なかなかここにいる実感は得られないのですが、改めて考えるとやはりハワイの素晴らしさは「自然の素晴らしさ」の一言に尽きます。

ここには、遊園地もなく、温泉も、スキー場もない。刺激的なことはほとんどありません。でも、深呼吸したくなるきれいな空気と、心安らぐ豊かな緑、すぐ近くにはストレスが飛んでいってしまうような美しいビーチがあり、私がハワイで一番好きな「心地よい風」があります。子どもが汗を流しながら思いっきり緑の上を走っている姿を見ると、ハワイで生活して良かったなと思えます。砂場の代わりに広いビーチがあり、遊具を備えた広い芝生と緑豊かな公園も、たくさんあります。ママたちは、新参者もウェルカムの気質で公園デビューの心配もなく、誰でもすぐに友達になります。子供が遊んでいる間、私が木陰で休むと、カンカン照りの日でもそこには冷房以上の心地良い風と涼しさが舞い込むのです。

何より、ハワイには「アロハスピリット」があります。車の運転をしていても、ウインカーを出せば「お先にどうぞ」と入れてくれます。入れてもらったほうは「ありがとう」と手を



振ったり、シャカ(親指と小指を立てる仕草)をして感謝の意を伝えます。逆にお互いに譲り過ぎて、なかなか前に進まないことすらあるくらい。

子どもを抱っこして重たい荷物を持っていれば、かなり年配のご老人でも、今時のタトゥーにピアスいっぱい若者でも、「手伝いましょうか」と優しく声をかけてくれます。そうすると、私自身も、次は他人に優しくしようと思う。優しさの輪が広がります。

日本の良いところを忘れずに、そしてハワイの良いところを吸収して、これからの生活をより良いものにしたと毎日考えています。

村重純子(1993年人科)

ハワイ稲門会について

ハワイ稲門会の正式な設立の年は1975年。ただ、それ以前から早稲田に留学をした帰米2世(米国で生まれ、日本で教育を受けてから米国に戻った日系人)を中心とした集まりが長らくあったと聞きます。それほど、早稲田は地元日系人になじみが深い。私がハワイ稲門会に参加し始めた1983年頃にも、帰米2世の先輩方が元気でおられ、その中には「大隈翁と話をしたことがある」という方もいて、日本企業から駐在している会員は、その方から地元情報をいろいろと仕入れていたのを思い出します。

時は流れて30年余。ハワイ稲門会の構成員も変化しています。現在では日本企業や総領事館の駐在員のみならず、駐在後そのままハワイに永住してしまった、ハワイ大学に勉強に来た、ハワイにリタイア後の生活を求めたなどなど、さまざまな方がいます。

総会、ゴルフ、ハイキング、ビーチクリーンアップ、クリスマスパーティー、そしてホノルルマラソン応援が年中行事となっており、また毎月最終水曜日にワイキキヨットクラブに集まり、情報交換や世間話をしています。このヨットクラブはアラモアナセンターのすぐ近くにあり、ドックに繋がれたボートやヨットを間近に眺め、夕方の涼しい風を受けながら同窓の諸氏とワインを傾けます。ハワイに住んでいて良かったと実感する時です。

一年中穏やかな気候に加え、医療を含めたハード・ソフト両面のインフラが確保され、なおかつ日本の文化が庶民の生活に溶け込んでいる。ホノルルからは定期便が成田、羽田、名古屋、大阪そして博多へ飛び、札幌、仙台、広島、那覇へも臨時便が飛ぶなど日本へのアクセスはすごく便利。多少物価が高いですが、衣服費はあまり掛からず、ビーチはすぐそこ。日本料理店はもとより世界各国の料理店があり、日本人にとってこんなに住みやすい外国はハワイ以外にないでしょう。結果、ハワイ稲門会の会員には長期に在住されている方も多く、永住の方も多数います。

日本からの来客も多く、白井前総長、奥島元総長も在職中にハワイを訪れていただいております。鎌田現総長の御来布も心から歓迎したいと、お待ちしております。卒業生の皆様、ハワイにお越しの際はぜひご連絡ください。

会長・林 英樹(1974年理工、76年理研修)

18年前にグリーンカードを取得し、老後の長期ハワイ滞在を楽しんでいます。仕事柄世界68カ国を駆け回り、いつかはハワイで老後を過ごしたいと思い、世界の名だたるリゾート地帯を直接訪問して調査し、結局、日本食がよく食べられ、日本語の通じる医者、弁護士がおられ、稲門会が当然存在するハワイに決めました。老後を過ごすには最適などところと存じます。

和波衛身(1959年理工)

海外生活が35年になりますが、どこに住んでも、どこで仕事をしていても「早稲田」という「あの有名な私立校!」と高く評価されます。国際的に認められてきたのも先輩諸氏のおかげと感謝しています。後輩のために私たちも頑張りましょう。

梨本昌子(1964年文学)

日本から走りに来た友人がスタートラインに立つ姿がうらやましかった。「せっかくハワイに住んでいるのに応援している場合じゃない」と思ったのがきっかけで、それ以降毎年参加するようになったホノルルマラソン。そんな私の年末恒例行事は、もう20回となりました。完走の意思を持ってゴールを目指す人がいる限り、ホノルルのゴールは待っていてくれます!

高橋優子(1988年教育)

日本の企業に10年間勤めた後、海外で起業、会社経営をしたいと思い、ロサンゼルスにMBA留学しました。何の縁故もない土地で、すぐような気持ちで初めて稲門会のドアを叩きました。初対面にもかかわらず、とても温かく迎えてもらえました。その後、東京、ホノルルを拠点に事業を立ち上げ会社を経営することになり、ハワイ稲門会に入会。恩返しをしたいという気持ちで数年間、幹事をさせていただきました。ハワイで何かを始められる方、ぜひハワイ稲門会にコンタクトなさってください。

永島徹三(1989年商学)

ハワイ稲門会の人びと



毎年恒例のチャリティー・ビーチクリーンアップにて

日本の大手出版社を辞めハワイに移住して5年。日本ではまったく顧みなかった早稲田の存在が海外ではなぜか身近になり、稲門会に入会しました。編集経験を買われて(?)今回この記事の取

りまとめをしましたが、締め切り間際にとどろき届く原稿、原稿依頼への返事の少なさ……そんな「ずぼら、ぶりを見て、うーんこれぞ早稲田だな」と懐かしく想いました。

岩瀬英介(1995年法学)

移住して4年、ハワイは日本人・日系人が地元で溶け込み、尊敬されている特別な場所だと思いましたが、その中でも稲門会の諸先輩の地元での存在感、貢献度の高さには、大変勇気づけられました。

米倉尚子(1995年文学)

親子留学をきっかけにハワイに住み始めて、3年目。昨年のクリスマスBBQでは、先輩がウクレレで校歌を弾いて下さり、異国で聴くその優しい音色と母校の仲間の温かさに、胸を打たれました。ハワイ稲門会には、アロハスピリットを持った素敵な早稲田魂があります!

竹下(旧姓・河野) 聖(1997年教育)

初めての海外駐在がハワイという恵まれた条件、また仕事内容は日本と同じなのですが、言葉の壁が厚く毎日四苦八苦しながら過ごしています。しかし負荷がかかる状態は自らの成長にとって良いこと。ハワイ稲門会での出会いも含め、とても良い経験となっています。

大石晃一郎(1998年政経)

